

## カナダドル為替相場について

2003年12月08日

初回のレポートでも述べましたが、カナダドルは対米ドルに対して2002年1月以降は一貫して強含んでおり、現在はほぼ10年振りの高値圏内にあります（数字が小さくなるとカナダドル高/米ドル安）。1.30を割り込んだ後、現在小康状態にありますが、米ドル高方向へのリバウンドもそれほど大きなものとなっていません。

下のチャートはカナダドル/米ドル相場の週足です。2003年に入ってからやや急激なペースでカナダドル高が進んでいます。2003年初めの1.56台から、6月下旬に1.33台前半



となった後、7月から8月に欠けて1.41台まで反落しました。その後、再びカナダドル高となったため、現状で機能している強いカナダドルの支持線は、1月と8月のカナダドル安時点を結んだライン（上の青い実線）であり、現在1.34台前半に位置しています。この支持線から垂直距離でもっとも離れた時点を平行に結んだものをチャンネルと呼びます。チャンネルを用いた見方は、今後のレポートでも良くご紹介すると思いますが、現在のカナダドル相場は、このチャンネルの中で上昇していく基調にあると考

えて良く、チャンネルがブレイクする兆しは今のところ見られません。8月以降、このチャンネル内で新たなカナダドルの支持線（青い点線）が形成されており、過去2週間は米ドルの反発を抑えることに成功しています。このまま機能するようならば、先ほどと同様に平行な線を引いて、チャンネル候補として意識して良いと思います。ただし、ここ3週間ほどは、週足の実体部分（週の始値と終値で囲んだ白黒の四角の部分。始値よりも終値の数字が大きければ白に、逆ならば黒になります）よりは上ヒゲ、下ヒゲ（高値および安値と上記実体部分を結んだ線）の長さが目立つ動きになっており、目先の方向感はやや乏しい印象です。

ちなみに支持線から平行に引いた線は、主にオシレーター系など他のテクニカル分析で総合に検証して有効と判断した局面では、利食いのポイントの候補となりますが、この手法については、今後、機会があればご紹介していきます。

カナダドルの対円相場の方は、大きな振れはあるものの、99年末から上昇基調にあります。



これも上記のように大きなチャンネルを形成していると見てよいでしょう。7月に90円に迫った局面では、このチャンネル上限に押し返された結果となり、チャンネルの半ばまで反落したあと、現在はもみ合いとなっています。

マクロ経済動向にも触れておきましょう。カナダ経済は米国経済回復の影響により、一時よりは明るさが増していますが、カナダドル高により輸出が期待ほど改善しておらず、先行きはやや不透明

です。また、政治面では、マーチン元蔵相が首相として近々就任予定ですが、蔵相時代に財政政策健全化を推し進めた実績もあり、一般的な政権交代時の当該通貨の利食い圧力とはなっても、為替相場にとって直接的な悪影響が生じる可能性は低いと思われます。